

医療法人 新松田会 **愛宕病院**

体と心を健康に。

地域に元気を発信する広報誌。

あたご  Atago

愛宕病院が提供する先端医療

脳神経センター 開設1周年

2015
4月発行

創刊号

ご自由にお取りください

各課・各部の紹介

健康ワンポイント

春のうつに注意

愛 LOVE クッキング

新生活のスタートは朝食から
春キャベツたっぷりの中華スープ

あたごINFO

医療法人 新松田会
愛宕病院

あたらご Atago

広報誌発刊にあたって

地域の皆さまに もっと近い病院であるために。

この度、医療法人新松田会 愛宕病院では、地域の皆さまへ情報発信する病院広報誌「あたらご」を創刊することとなりました。

当院は高知市のほぼ中央に位置し、昭和41年に民間で初めての救急病院としてスタートいたしました。開院から今日まで、社会を取り巻く情勢は目まぐるしく変化し、医療技術においてもめざましい進歩を遂げてきました。

当院では社会のニーズに適応し、地域の皆さまから信頼していただける医療機関を目指し、救急医療からリハビリテーションまでの一貫した医療体制を作り上げております。

整形外科では、椎間板ヘルニアにおけるPELD（経皮的内視鏡下椎間板ヘルニア摘出術）を全国に先駆けて導入しております。この手術は原則として施術翌日の退院が可能で、患者さまへの負担が非常に少ない術式です。

2014年4月開設の脳神経センターでは、頭蓋底手術の世界的権威である福島孝徳医師を最高顧問に迎え、中国四国地方の難治性脳腫瘍などの患者さまに対して高度な医療を提供しております。

また、高齢化が進む昨今の社会状況に対応し、訪問看護ステーション・通所施設等、在宅医療にも力を入れております。

私どもスタッフは、日々医療技術を磨き、患者さまに安心してご利用いただけるよう努力してまいります。また、「私たちの地域には愛宕病院があるから安心。」と思っていただけるような、地域の皆さまから愛され親しんでいただける病院づくりを目指してまいります。

この広報誌が、皆さまに元気を発信し、健康づくりの一助となれば幸いです。



理事長 内海 順子



外来待合

愛宕病院は高知市の中心部に昭和41年民間で初めての救急病院として開院し、来年には50周年を迎えます。

現在では、二次救急病院として地域の医療機関と連携し、24時間体制の救急診療を行うとともに、リハビリテーションや療養、介護まで一貫した医療体制を整えています。また、在宅ケアにも力を注いでおり、訪問看護ステーション、ホームヘルパーステーション、ケアマネージャーステーション、療養通所ケアセンターを併設しています。検査や手術などには高度先進医療機器を整備しており、患者さま一人ひとりに合った治療を提供しています。



ナースステーション



救急医療室



中庭



2012年には耐震改修工事と増築を行い、リニューアルいたしました。

地域の病院とはどうあるべきか。
愛宕病院が目指す病院づくり。

脳神経センター 開設1周年

脳神経センター長 溝渕 光



高度な医療技術と看護サービスを提供するために

愛宕病院では2014年4月に脳神経外科を中心とした脳に関する専門センター「脳神経センター」を開設しました。豊富な症例数と知識をもつ脳神経外科専門医を中心に、看護師・技術検査部門スタッフで構成し、脳腫瘍・脳卒中・頭痛などの診断・治療を行っています。また、脳ドックも行っており、予防・早期発見のためのサポートをしています。また、当脳神経センター最高顧問である福島孝徳医師が定期的に来院され、当院脳神経外科医と一緒に難治性脳腫瘍の手術を行っています。脳神経センターは、脳

神経領域において質の高い適正な医療を提供するとともに、2014年7月には最新鋭の3.0テスラMRI (Philips ACHIVA3.0T)を導入するなど高度先進医療機器を整備し、目まぐるしく進歩する医療に対応しております。患者さま一人ひとりに合った治療法を見出し、生命予後・機能予後を高め、より良い人生を送るための力になりたいと考えております。今後さらに、高度な医療技術と看護サービスを提供するセンターとして常に前進し、患者さまによりよい医療を提供できるよう努力してまいります。

脳神経センターとは

愛宕病院 脳神経センターには、脳卒中センター・頭蓋底外科センター・頭痛センターがあります。

脳卒中センター

脳卒中センターの最大の使命は、脳卒中の患者さまに満足のいく治療を行うことです。脳卒中をはじめ脳の病気はいつでもどこでも発症します。安心して治療を受けていただけるよう365日24時間体制で診療を行っています。緊急時には、CT・MRI・超音波検査・脳血管撮影(脳血管内治療を含む)・脳神経外科手術等24時間対応しています。診療放射線技師の協力のもと、最新の画像診断がいつでも行える体制にあります。また、遠隔画像診断補助システムを採用しており、院外に居る専門医に検査画像を送信し、専門医がスマートフォンで閲覧して必要な情報をやりとりします。そうすることで病院内での診断や治療をサポートしています。

頭蓋底外科センター

最高顧問である福島孝徳医師の指導のもと、中国・四国地方の難治性脳腫瘍患者さまに対応し、頭蓋底手術を行っています。脳腫瘍と診断され手術が難しいと言われた方などさまざまな患者さまが当センターに集まっています。

頭痛センター

頭痛専門医・脳神経外科専門医が直接お話を伺い、疑われる頭痛に対して必要な検査をそれぞれの患者さまに合わせて行います。CT・MRI検査、頸椎などのX線検査だけでなく、生活習慣病の関わりが考えられる場合には血液検査などを行い、必要な治療等のご相談を行います。

より安全な治療のために

脳神経外科の手術は、顕微鏡を使い、非常に緻密で繊細な技術が要求されます。少しでも違う場所を切除ただけで神経障害が生じる場合があります。そのため、当院では次のような手法を取り入れ、より安全な治療が行えるよう最善を尽くしています。

■術前シミュレーション

術前に、3D-CTA・MRI・ナビゲーションシステムを用いワークステーションによる画像処理を行い、術前に手術計画、手術シミュレーションをします。

■術中ナビゲーション

術中には、ナビゲーションシステムを用い、病変の広がり、重要な神経や血管の位置、手術している部位をリアルタイムに表示し、神経や血管を傷つけることなく、病変部を残さず切除します。

■術中モニタリング

術中モニタリングを行い、手術により障害される可能性のある脳機能および脳神経機能を術中に監視します。術中モニタリングの導入により、手術合併症が減少しています。

■頭蓋底手術

頭蓋底アプローチが必要な場合には、頭蓋底手術を行います。頭蓋底の微小解剖に精通するため、手術解剖を学ぶ実習を定期的に行っています。

■ニューロリハビリテーション

近年、中枢神経系の画像診断技術(ニューロイメージング)が大きく発展してきました。それらにはMRI(磁気共鳴画像装置)、fMRI(機能的磁気共鳴画像装置)、TMS(経頭蓋磁気刺激法)などが挙げられます。これらをバックグラウンドに、神経科学と連携した「ニューロリハビリテーション」(神経リハビリ)という新しいジャンルが切り開かれました。それは、損傷後の神経機能回復の促進を目的にしたリハビリテーションです。当センターにおいても、3T-MRI、fMRI、拡散テンソルトラクトグラフィー、TMSにより、脳機能、脳可塑性の評価ができる環境にあり、これまでニューロリハビリテーションを行ってきています。

実績

●脳卒中後上肢麻痺に対する経頭蓋磁気刺激療法＝のべ60例
●痙攣に対するボトックス療法＝のべ211例 ●FES(機能的電器刺激療法)



アメリカでの研修

術中モニタリング



術中ナビゲーション



写真左から、朴啓彰(非常勤)・梶田健(非常勤)・本田信也・溝渕光・佐田泰夫・楠瀬幹雄

脳神経センター 最高顧問 福島孝徳医師

福島医師は1991年渡米し、数々の大学病院の教授を歴任、現在はカロライナ頭蓋底手術センター所長およびデューク大学脳神経外科教授などを兼任されています。そのかわり、世界中を駆け巡り、後進に技術や知識を伝えるため、手術や講義を行っています。また定期的に手術解剖を学ぶ研修会・講習会をアメリカで開催しており、世界中の脳外科医がこれに参加しています。福島医師は、頭蓋底外科手術(頭蓋骨を削り、脳を包んでいる硬膜の外からアプローチする方法)を数多く手がけています。渡米後研究を

重ね、革新的な手術アプローチ(鍵穴手術)を編み出し、また多くの先端医療機器・設備を開発しました。その手術テクニックは卓越しており、「神の手を持つ男」と呼ばれ世界中から賞賛を集めています。福島医師は、優れた技術、知識はもちろん仁徳にもあふれています。患者さま一人ひとりに真摯に向き合い懇切丁寧に診察し、励ましの言葉をかけ握手をします。多忙を極める中、いつも元気で朗らかで前向き。福島医師の周りには明るく活力に満ちた雰囲気広がります。



愛宕病院での手術



福島医師との手術例

微小血管減圧術	27例	類皮嚢胞	4例
頭蓋底髄膜腫	25例	頭蓋咽頭腫	3例
聴神経鞘腫	17例	嗅神経芽腫	2例
下垂体腫瘍	17例	眼窩腫瘍	2例
脳動脈瘤	11例	松果体腫瘍	1例
海綿状血管腫	8例	グロームス腫瘍	1例
小脳血管芽腫	8例	その他	15例

合計141例

福島孝徳医師の 診察・手術をご希望の方へ

来院日に受診することが可能ですが、診察は完全予約制となっております。なお、来院日には手術を予定しており、その状況によってお待たせすることをご了承ください。ご予約、お問い合わせは愛宕病院 脳神経外科外来まで。

Tel.088-823-3301(代)
E-mail mizo@atago-hp.or.jp

福島孝徳医師プロフィール

1968年	東京大学医学部卒業
1991年	南カリフォルニア大学医療センター脳神経外科教授就任(米国永住を決意)
1994年	ペンシルバニア医科大学アルゲニー総合病院脳神経外科教授 アルゲニー脳神経研究所頭蓋底手術センター所長 後進のための頭蓋底手術実習セミナー開設
1998年～	カロライナ頭蓋底手術センター所長およびデューク大学脳神経外科教授など

各課・各部の紹介

患者さまとご家族のご相談窓口

愛宕病院では、入院および通院患者さまや地域の皆さまのさまざまなニーズに対応できる病院を目指し、法人内および地域との連携強化、病床運用の効率化のため平成18年に地域医療連携室を設立いたしました。患者さまやご家族の意志を尊重し、安心と満足のいく支援を常に心がけ、急性期から慢性期、在宅支援に至るまでの総合的、継続的な医療および介護・福祉サービス等に繋ぐよう努力しています。

地域医療連携室には、看護師・ソーシャルワーカー・事務員等5名が配属されています。専門性を持ったスタッフを同じ部署に配属することで情報を共有化することができ、それぞれの専門性を活用していくことで地域の医療関係者や施設・介護支援事業所・行政機関等との連携を図り、患者さまやご家族の要望に沿ったサービスの提供を行っています。

入院相談を受け、入院時から急性期・回復期または医療療養・介護療養型医療施設への移行のため、地域医療連携室で空床状況の一元化をし、ベッドコントロール業務、転院先探し、在宅までを見据えた社会資源の活用や施設への紹介なども行っています。また、必要に応じ在宅復帰の患者さまに対しては、病気や怪我をしたことで変化した生活を、少しでも元の生活に近づけるため看護師・リハビリスタッフ・ソーシャルワーカー等が自宅を訪問し、ご本人やご家族と共に家屋調査を行っています。それにより、退院後の生活の不安や悩みを少しでも軽減できるよう支援しています。

保健・医療・福祉の制度が機能分化している中で、患者さまに適した施設やサービスを探し出し、患者さまやご家族に説明し納得していただき、最良の支援ができるよう努めています。

急速な制度改正の中で、患者さまやご家族に多くの情報を提供し、精神的・経済的負担の軽減を図り、小児から高齢者まで安心して利用できる医療機関であることに向かって努めてまいります。通院・入院に関わらず、ご心配事などございましたらお気軽にご相談ください。

地域医療連携室

場所：北館（3病棟）1F
（リハビリテーション室の向かい側）
相談時間：午前9:00～11:30（月～金）
午後1:30～4:30（月～金）
電話番号：088-823-3301（病院代表）



専門性を持ったスタッフが
ご相談にお答えします



院内の美化は私たちにおまかせください



愛宕病院 美化係

平成22年に新しい部署として美化係が誕生し、5年になります。まだまだ病院の美化係として馴染みが薄い人が多いかと思います。スタッフの年齢も幅広いですが、年齢を感じさせない若さで日々頑張っています。笑いの絶えない仲間思いの楽しい部署です。

【業務内容】

日常清掃：院内すべて・訪問看護ステーション、ベッド、ガラス、その他
定期清掃：ワックス掛け・大川筋マンション

【構成人員】 16名

【普段から気を付けている点】

1. 明るく元気にあいさつをする
2. 報連相
3. 要望にできる限り対応できるように心がける



健康ワンポイント

春のうつに注意

精神科 菅野 佐和子



春は意外と体調を崩しやすい季節。
環境変化や寒暖差などによる「うつ」に要注意!

春は心も身体も何かウキウキしているように感じる季節ですね。しかし実は「うつ」が起りやすい時期でもあるんです。これまでの長い冬も、日照時間が短いため精神を安定させる脳内物質（セロトニン）が減って、冬季うつという季節性のうつ病が起きたりします。これは春先あたりから自然と改善するのが通常ですが、春以降にうつ病へ移行することもあります。原因の一つとしてまず考えられるのが、特に日本の場合は進級や進学・入社・異動・転居など、生活の大きな環境変化が「木の芽時（このめどき）」といわれる春に集中しやすいことです。大きな喜びや期待がある一方で悲哀や絶望感を感じたり、また不安や緊張感、ストレス状態を引き起こしやすくなります。そしてもう一つの原因としては、花冷えや寒の戻りといわれるように、春先は寒暖の差が大きく天候も不安定なため、体内環境を保っている自律神経のバランスが崩

れやすくなることです。自律神経がうまく機能しないと、気分は不安定になり、イライラや不安・憂うつ感・焦りが出てきたりします。また胃腸障害や頭痛・肩こり・睡眠障害・倦怠感など体調不良も起りやすくなります。昔からよく言われる「五月病」も、こういった春の環境変化でのストレスが、知らず知らずのうちに身体と心の一時不調となって出てくるものです。ストレス社会の現代では誰にでも起りうるといえますが、五月病から「うつ病」になることもあるので注意が必要です。春のうつをできるだけ予防して気分を安定させるために、何よりも十分な栄養、そして睡眠を正しくとり、生活リズムを整えることを心がけましょう。日光に当たる、散歩や軽い運動をする、好きなことで気分転換を図るなども良い方法です。ただし過度なもの、急激な変化はかえってストレスを蓄積させますので、少しずつ慣らしていくようにしてくださいね。

十分な
栄養と睡眠を
とりましょう

散歩や
軽い運動も
気分転換に
おすすめ!



愛 LOVE クッキング

新生活のスタートは朝食から

栄養科 管理栄養士
中越順子



1人分
72kcal
塩分1.1g

ビタミンCは加熱するとこわれやすいので、加熱する時はスープやポトフなどにして汁ごと食べると効果的です。



中越順子

春キャベツたっぷりの中華スープ

朝食にもぴったり

材料と作り方（4人分）

- 春キャベツ 4～5枚
- にんじん 少量（3cm程度）
- 卵 1個
- ごま油 大さじ1/2
- 水 4カップ（800cc）
- 中華スープの素 大さじ1
※コンソメでもOK
- 塩・こしょう 少々

- ①.キャベツはざく切りにし、人参は細切りにする。
- ②.鍋にごま油を入れてキャベツを炒め火が通ったら、人参を入れる。
- ③.水を加えて沸騰したら、中華スープの素を加え、キャベツがしんなりするまで煮る。
- ④.塩・こしょうで味を調え、溶き卵を回し入れる。

春キャベツ

ビタミンC・ビタミンU（キャベジン）が豊富。ビタミンC＝抗ストレスビタミンとも言われ、疲労やストレスへの対処によって消耗する副腎皮質ホルモンの合成をサポートする働きがあります。ビタミンUは、胃腸の調子を整えます。胃粘膜を強化し、傷ついた胃を修復します。



市民公開講座

脳を守ろう・ 脳ドックの勧め



日時: 2015年9月27日(日) 12:30~16:30

場所: 高知県民文化ホール オレンジホール

『脳を守ろう・脳ドックの勧め』(仮題)と題して、市民公開講座を開催いたします。脳神経センター最高顧問の福島孝徳医師をはじめとする脳神経外科の先生方からの講演を予定しております。申込方法など詳細は、後日ホームページや新聞広告などでお知らせいたします。

毎月第2
土曜日

脳神経センター 健康教室



時間: 14:00~15:30

場所: 愛宕病院 北館1階 リハビリテーション室

健康づくりの一環として、健康教室を開催しています。医師とその他の医療従事者から、皆さまの疾患予防や健康に役立てていただけるようなお話をいたします。

どなたでもお気軽に
ご参加ください。



参加無料・事前申込不要

【お問い合わせ先】愛宕病院 広報担当 伊東

高知市にお住まいの方は 大腸がん検診が無料で 受けられます

ご存知
ですか?

高知市大腸がん検診を受ける事ができる方

- 高知市に住所がある方 ●40歳以上の方
- 職場等で大腸がん検診を受けていない方
- 今年度初めて高知市大腸がん検診を受ける方



上記に関するお問い合わせはこちらまで

TEL(代表) 088-823-3301

外来診療時間 一覧表

診療科	午前(月~土)	午後(月~金)
内科	9:00~12:00	13:30~17:00
外科	9:00~12:00	14:00~17:00
整形外科	9:00~12:00	
脳神経外科	9:00~12:00	13:30~17:00
婦人科	9:00~11:30	16:00~16:30
リハビリテーション科	9:00~12:00	(水曜日休診)
眼科	9:00~12:00	13:30~17:00
心療内科・精神科	9:00~12:00	13:30~17:00
泌尿器科	9:00~11:30 (火曜日のみ)	14:00~16:00 (火曜日のみ)
耳鼻咽喉科	9:00~11:30 (月・土)	14:00~17:00 (水・木)
ER蘇生センター	24時間対応	
脳神経センター	24時間対応	

※各科診療日については、あらかじめお電話にて確認の上ご来院ください。
※愛宕病院ホームページにも掲載されています。ご覧ください。

休診日:日曜日・祝日

※但し、急患は休診日・深夜も24時間診療します



編集後記

広報委員会発足から4か月余り、委員会メンバーはもちろん、病院スタッフの皆さまにご協力をいただき、なんとか創刊号発刊に漕ぎつけました。季刊誌として年4回の発行を予定しております。病院の情報の他にも、健康的なレシピなど役立つ情報を元気に発信していきます。皆さまからもご意見をいただきつつ、号を重ねていければと考えています。病院スタッフの皆さまからの面白いネタや記事も随時募集していますので、ご協力のほどお願いします!

